

中国春季リーグ入替戦結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

昨日、広島大学北体育館において、中国春季リーグ入替戦が開催されました。

広島大学女子の結果は、以下のとおりです。

vs 広島文化学園大学 (1部5位)

●0-3 (6-25、12-25、20-25)

(広大バレー部 X (Twitter))

<https://twitter.com/hirodaiVOLLEY>

経験を積むことが目的であれば、全セット10点そこそこで敗戦していたと思いますが、それでは勝つべき相手との正確な力差が測れません。全員が本気で勝ちに行き、今できる万全の準備をしたと言えるからこそ、目指している場所と自分たちのいる場所がどれだけ離れているか、分かるものです。サーブで攻めよう、このローテではこうしよう、相手を想定して対策も立てたことと思いますが、結果はローテーションを1周回すのがやっとの6点。サーブはミスを連発し、キャッチは乱れ、相手の攻撃にはほとんどボールに触ることすらできませんでしたが、これが今のチームの正確な実力です。もっとこうしていれば、これが出来ていれば、と試合後に思ったかもしれませんが、やろうと思ったことができなかった時点で、相手との距離を見誤っていたことと、自分たちの準備と力量を過信していたことは明らかです。6点しか取れないチームが、いきなり25点を目指しても成果は上がりません。まずは10点、15点、20点と段階を追ってステップアップできるように、チーム状態を適切に把握して、レベルに応じた目標と練習を設定することが大切です。

個々の能力とローテーションごとの濃淡がはっきりしているため、相手のコートから広大を見ると、この場所やこの選手にボールを運べば間違いなく崩せるか得点できる、と思えるポイントが今は常に複数ある状態です。相手としてはやるべきことがはっきりするので力むこともなく、豊富な選択肢から得点の可能性が高い順にボールを運んだ、ただそれだけの印象でした。逆に言うと、決してどうしようもないボールがあるわけではなく、考え方や組

織力だけで随分変わるとも感じました。両コートを見比べるとよく分かりますが、広大は一本目を拾いに行くときに複数の選手が取りに行っており、それゆえ自分のボールなのかどうかが分からなくなるので、迷いが生じて一歩目が度々遅れます。行かなくても良いボールにも行ってしまうため、今度は三本目の準備のための一歩目が遅くなり、1ラリーでマイナス二歩分の時間を失っているのです。十分な攻撃をすることができません。実際、広大が得点したときはどれも十分な時間が確保できていたときであり、どれも決して複雑なコンビではなく、シンプルな攻撃で得点できていたことにこのチームの将来性を感じています。まずはセンターレシーブとブロック裏の責任を明確にして、一本目の一歩目が遅れないことから始めましょう。

出場時間は短かったものの、初の公式戦となった大石（1年・宮崎・延岡高校）の柔らかいレシーブは大きな収穫でした。チームに最も足りていない時間をまさに作り出すことができている、少ない力でもボールが上がることは多くの選手が見習わないといけません。岩永（2年・長崎西高校）は股関節と腰を結んだ中心地点、体の重心がボールよりも高い位置にあることが多く、体より手が先に動いてしまうため、取れる範囲が狭くなり、ボールが上ではなく横に飛んでいる状況です。スパイクは助走の力を上に伝えられるようになってきましたが、空中で左手が遊んでおり、ボールに力が乗り切っていません。左手をきちんと引き込むことで右の肩甲骨が上がり、打力と打点が上がりコース幅も広がります。岩永のポテンシャルなら、ブロッカーを優に弾き飛ばし、後衛からでも得点できる大エースに必ずなれます。力がつき始めていますので、方向性を周囲にきちんと確認して、やればやるだけ伸びる時間を過ごして欲しいと思います。中四国では1部チームと対戦する、試合を見る機会があると思いますので、それぞれ同じポジションのプレイヤーがどういう動きをしているか、目線や力の使い方まで学んで欲しいと思います。

これで約1か月間の春季リーグ戦も無事に閉幕しました。

会場等にてご支援ご声援いただいた同窓生の皆様、また、中国学連を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

次週、5/25からは岡山県で中四国大会が開催されます。

引き続きよろしく願いいたします。